



コミュニティ政策学会

# コミュニティ政策学会

Japan Association for Community policy

## Newsletter No.29 (2014. 5. 29)

## 第13回大会(横浜)のご案内

# 「市民が育む地域運営の仕組み」

会 期：2014年7月5日(土)・6日(日)

会 場：第一会場：横浜市開港記念会館(横浜市中区本町1丁目6番地)

第二会場：横浜市市民活動支援センター

(横浜市中区桜木町1-1-56 クリーンセンタービル 4F)

主 催：コミュニティ政策学会 共 催：横浜市

### 開催趣旨

今年度は久々に関東での開催となりました。開催地横浜は、独特な様相をもった都市であり、独自で先進的な取り組みが数多く見られます。その基礎は、都市横浜が、戦後米軍の接収と高度成長期の爆発的人口膨張の負の遺産を受けて、都市基盤や身近な住民生活の基盤の整備に地域住民も行政も苦心してきたところにあると思われまます。今横浜市民は、「都市横浜の成熟」のもとで一定水準の快適な生活基盤を享受していますが、他方で格差の拡大の問題や郊外部を中心とする少子高齢化の問題が深刻化してきています。これまでの大会では、開催地のコミュニティの仕組み(都市内分権制度)を中心に企画されることが多かったと思いますが、人口370万人、面積430平方キロの巨大都市横浜には、全市を覆うような都市内分権の仕組みはまだ存在しません。本大会では、横浜市民と横浜市行政が多様に試みているコミュニティ政策の諸側面を学び、そこからコミュニティ政策の普遍的なメッセージを会員それぞれがつかみとれるように企画したつもりです。

これに加えて、もちろん学会としてのベーシックな学問的交流の場である自由論題分科会も用意されています。震災分科会、中山間地域分科会も、コミュニティ政策を研究する学会としていわばライフワーク的に継続して取り組んでいます。是非横浜大会にご参加ください。

■大会参加費(資料代含む) 会員・非会員とも 1,500円

(\*但し、横浜市在住の方、横浜市職員の方は横浜市に共催団体として多大なご協力を頂いているため無料とさせていただきます。)

■懇親会費 5,000円 於 SCANDIAガーデン

横浜市中区海岸通1丁目1番地 045(201)2262



## 【プログラム】

### 第1日目 7月5日(土)

12時 総会(会員)の参加受付開始(於 横浜市開港記念会館ホール)  
13時30分 シンポジウムの参加受付開始(於 横浜市開港記念会館ホール)

■総会 : 13時00分～14時00分 会場 : 横浜市開港記念会館1階1号室

■記念シンポジウム : 14時15分～16時30分(予定) 会場 : 横浜市開港記念会館1階講堂  
鼎談「市民が育む地域運営の仕組み」

#### 企画趣旨

都市横浜は、戦後米軍の接収と高度成長期の爆発的人口膨張の負の遺産を受けて、都市基盤や身近な住民生活の基盤の整備に地域住民も行政も苦心してきました。今日ようやく都市横浜の「成熟」が語られるようになりましたが、他方で格差の拡大の問題や郊外部を中心とする少子高齢化の問題が深刻化してきています。これまでの大会では、開催地のコミュニティの仕組み(都市内分権制度)を中心に企画されることが多かったと思いますが、人口370万人、面積430平方キロの巨大都市横浜には、全市を覆うような都市内分権の仕組みはまだ存在しません。戦後横浜の苦難の歴史をともに歩んできた市民たちが、その都度の生活課題に対応する中で試してきた様々な工夫を踏まえて、行政も様々な仕組みを提案し、市民も様々なこれを活用して実践してきているのが現状だといえるでしょう。このような認識から出発して、横浜大会実行委員会は、大会のテーマを「市民が育む地域運営の仕組み」とし、市民、地域社会、市民活動、そして行政が多様に取り組んできた地域コミュニティの活動を俯瞰して分科会企画を練り、これを積み上げて全体企画を練りました。

全体会は、横浜の地域コミュニティにおいてそれぞれの立場から関わってこられた方々、すなわち、市民活動をベースに福祉事業者として活躍されている中野しずよさん、都市計画プランナーとして横浜に根付いて仕事をしてこられた山路清貴さん、行政の立場から柏崎誠副市長の三人の鼎談という形を取り、学会から名和田会長と玉野理事が聞き役を務めて、横浜の地域社会の過去・現在・未来を浮き彫りにします。

#### ●登壇者 :

- ①岡野 富茂子 (港南台生き生きプレイパーク代表・未来につなぐ外遊びの会代表)
- ②山路 清貴 (山路商事株式会社都市・建築設計室長)
- ③柏崎 誠 (横浜市副市長)

- 聞き役 : 名和田是彦 (コミュニティ政策学会会長)  
玉野和志 (コミュニティ政策学会理事)

■懇親会 : 18時00分～20時00分

会場 : SCANDIAガーデン (横浜市中区海岸通1-1)  
会費 : 5,000円

第2日目 7月6日(日)

■分科会 I : 9時30分～11時30分

会場 : 横浜市開港記念会館 1階・2階会議室

## (1) 「地域における中間支援組織の新たな役割」

コーディネーター: 石井大一郎(認定 NPO 法人市民セクターよこはま理事・学会員)  
 コメンタター: 吉原明香(認定 NPO 法人市民セクターよこはま理事・事務局長)

## 企画趣旨:

本学会が論議の中心とする「都市内分権」という言葉と概念及びその実施手法が横浜市においては一般化されてきていない。横浜市が概念として持つ「都市内分権」に近い類似語としては「エリアマネジメント」が挙げられるが、市内すべてにその概念や手法は普及しているとは言い難い。他の政令指定都市でも試行し始めている「都市内分権」がなぜ、横浜で発想されていないのか。要因としては巨大化した人口や市域の範囲にあると推測できるが、大規模都市では「都市内分権」の発想が生まれてこないのか。あるいはそれに代わる制度や新たな試みはあるのか。

都市内のコミュニティの形成という視点での地域福祉計画は、横浜市は全国でも横浜だけの特徴として、市内すべての地区(日常生活圏内)毎に地域福祉保健計画の地区別計画を策定している。これは、生活支援を日常生活圏内で地域自らが実施することを意図して策定されている。ある意味地域が自ら生活支援者への支援方法を模索し、関係機関をつなぐ中間支援組織と積極的に協働することでもある。

そのため、今回は、1980年代中ごろから生まれた横浜における中間支援組織について、その歴史を振り返りつつ、役割と位置づけを検証する。

## [事例報告] 中間支援組織の役割と活動内容

## [報告者] ①横浜市社会福祉協議会

「横浜市内地区ボランティアボランティアセンター」

(内容) 市内に80か所以上展開する地域の中でのボランティアコーディネート機能について、その活動内容と分析

## ②塚原 泉(NPO法人親がめ理事・子育て支援拠点「かなーちえ」施設長)

「子育て中間支援組織『NPO法人親がめ・子育て支援拠点かなーちえ』」

(内容) 住民同士の連携・協働を進め、地域・区と共に、区内にすくすくかめっ子親子のたまり場を40カ所以上立ち上げ、運営を支援している、その活動内容と分析

## ③坂倉杏介(慶應義塾大学G-sec研究所特別研究講師、三田の家LLP代表)

「コミュニティづくりの活動拠点『芝の家』」

(内容) 東京都港区で大学と連携して運営されるコミュニティ拠点と地域の担い手養成事業、およびその背景となる地区総合支所制の紹介と分析

## (2) 「男女共同参画の歴史と展開——コミュニティへの定着を求めて」

コーディネーター: 玉野和志(首都大学東京)

## 企画趣旨:

「男女共同参画」への取り組みは、1995年の「第4回世界女性会議(北京会議)」をきっかけに制定された「男女共同参画ビジョン」などをへて、1999年に基本法が制定され、その実現を主たる目標としている。このように「男女共同参画」はある意味で「国連」を中心とした活動に導かれてきたところが大きい。

しかしながら、それ以前からコミュニティのレベルでは専業主婦層を中心とした地域の教育文化運動や生協活動などの女性の活動が広く展開しており、その蓄積が地方自治体における「男女共同参画」の動きを支えてきたところもある。その後、女性の就労が進むことで専業主婦層によって支えられてきた地域活動が曲がり角を迎えるとともに、「男女共同参画」の活動も、改めてそのコミュニティへの定着(「土着化・地域化」)が求められるようになっていく。

本分科会では、コミュニティでの女性の活動においても豊かな蓄積をもつ横浜市において、「男女共同参画」に長くたずさわってきた方々の実践報告にもとづき、そのコミュニティへの定着の展望を描くことを課題としたい。

- [報告者] ①納米恵美子 ((公財) 横浜市男女共同参画推進協会 理事、事業本部長)  
「国連世界女性会議と『男女共同参画』: 草の根の女性たちの関わりをめぐって」  
②常光明子 (男女共同参画センター横浜北 事業課長)  
「開港のまちの女性たち～地域と人の育ち合い」  
③米岡美智枝 (横浜市西区第4地区羽沢西部自治会 会長)  
「一女性自治会長が振り返る在任13年～地域の特殊性の中で～」
- [解題] 玉野和志 (首都大学東京)
- [司会] 泉一弘 (NPO法人ふらっとステーション・ドリーム理事長)

### (3) 「中山間地域の地域経営を考える」

コーディネーター: 辻上浩司 (伊賀市副市長)

コメンテーター: 関司直也 (法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科)

#### 企画趣旨:

過疎地域や山村振興地域などの中山間地域においては、少子高齢化やこれに伴う人口減少により、地域の助け合いや共同作業といったコミュニティの機能が弱くなっている地域もあり、今後さらに人口減少が進むとコミュニティとしての存立が厳しくなる集落が発生する恐れもあります。一方こうした地域は、国土や自然環境の保全、文化の伝承など多面的で公益的な役割も担っており、様々な資源が潜在している地域でもあります。

この分科会では、中山間地域に暮らす住民に対する生活支援 (買物、交通、地域福祉など) の取組と、集落を維持・再生する産業支援 (公共空間の管理・保全、産業おこし、移住・交流など) の取組に焦点を当て、これらの取組を進めていく組織形態として法人格のあり方に議論を発展させていきます。

- [報告者] ①村山史世 (麻布大学講師)  
「相模原市青根地区の取組」(仮称)  
②大平展子 (NPO法人夢未来くんま副理事長)  
「浜松市天竜区熊地区の取組」(仮称)  
③未定 (島根県雲南市役所)  
「スーパーコミュニティ法人による中山間地域の再生」(仮称)

### (4) 自由論題部会 A

- [報告者] ①東 善朗 (岐阜大学工学研究科生産開発システム工学専攻)  
「住民自治制度の担い手の意識についての考察  
—上越市地域協議会と名古屋市港まちづくり協議会を事例に—」  
②三浦 哲司 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授)  
「大都市における地域住民協議会の新展開  
—大阪市鶴見区の緑地域活動協議会の実践を手がかりに—」  
③坂本 由貴 (海津市青少年育成推進委員会委員、海津市学校評議員会委員、海津市都市計画審議会委員、海津市吉里地区社会福祉協議会運営委員)  
「社会的弱者たちの地域コミュニティにおける担い手への可能性」  
④仁科 伸子 (熊本学園大学社会福祉学部)  
「中山間地域における包括的コミュニティ・ケアの課題」
- [司会] 選考中

昼食・休憩 : 11時30分～12時20分

■分科会Ⅱ：12時30分～14時30分  
他

会場：横浜市開港記念会館1階・2階会議室

(5)「地域で取り組む子ども・子育て支援 ～格差時代のコミュニティ政策～」

コーディネーター：米田 佐知子(子どもの未来サポートオフィス 代表)  
コメンテーター：出口 高靖(法政大学大学院 学会メンバー)

企画趣旨：

現在、日本の子どもの6人に1人が「貧困」の状態にあるとされています。少子高齢化、人口減少への対応が喫緊の課題である日本社会において、子どもの健全な育ちを支えるコミュニティの再構築が必要です。

社会の中で顕在化しにくい「子どもの貧困と格差」に早くから現場で気づき、必要とされる事業や支援活動を展開している市民活動者が、横浜の子どもとその家庭の現状を語り、子どもの育ちを切り口に、これからのコミュニティのあり方を考えます。人口が370万を超えた大都市横浜において、NPOらしい柔軟な行動力を活かし、個々に寄り添う支援を継続するために必要な政策や地域資源は何か、小規模多機能な子育て支援とコミュニティづくりを提起します。

子どもの問題に焦点を当てるのは、横浜大会が初めてとなります。来年には「子ども・子育て新制度」が始まり、子育てが社会保障の一環となります。コミュニティ政策の新たな視点として共に考える分科会です。

【報告者】①伊藤 保子

(NPO法人さくらんぼ理事長・瀬谷区地域子育て支援拠点「にこてらす」施設長)

「横浜市瀬谷区における、妊産婦・乳幼児期からの切れ目のない子育て支援と生活支援の取り組み」

②須田 洋平 (NPO法人あしほ・つるみ元気塾ほっとりんく 施設長)

「横浜市鶴見区における『寄り添い型 生活支援・学習支援』の取り組み」

③山田 美智子

(NPO法人はぐっと・西区地域子育て地域子育て支援拠点「スマイル・ポート」施設長)

「横浜市西区における活動から見える、地域における子どもの生活体験について」

(6)「郊外型住宅地のコミュニティ再生 — 緑と農の活用による担い手を考える」

コーディネーター：内海 宏 (地域計画研究所)

コメンテーター：山下 順三 (横浜市社会福祉協議会)

企画趣旨：

首都圏の郊外型住宅地は、今後、急激な人口減少と高齢化の進展に加えて、単独世帯化や孤立化が進み、空き地・空き家化が進展する。現在すでに、防犯、防災、高齢者の介護や生活支援、健康づくり、子育て、環境などの多くの問題に直面し、これらの問題を解決する方法や仕組みを模索している地域も多い。このような郊外型住宅地では、持続的で魅力ある地域を形成するために、多様な世代を巻き込み、地域の担い手発掘や新たな人材づくりを進めることが重要である。

そこで本分科会では、幼児子供、青少年、親子、若年層、中堅層、熟年層などの多様な世代・属性の住民の参画を促し、小学校や幼稚園、事務所、商業者、医療福祉施設など地域関係者と連携を進め、新たなコミュニティ活動の担い手を発掘し育成することに力点を置いている横浜市の郊外型住宅地を取り上げる。特に、郊外型住宅地の魅力づくりや環境づくりに効果が高いと考えられる、緑化活動や農的活動などを積極的に取り組んでいる地域に注目する。

今後の郊外型住宅地の新たな地域像を構築しつつ、その担い手の確保や人材育成に資するように、各地域の代表者に、地域のコミュニティ活動の実態と担い手、特に緑や農などの郊外住宅地の魅力づくりを進めるための課題と人材発掘や交流の広がりについて報告していただく。会場全体で、緑や農による地域の魅力づくりと今後の活動の担い手の発掘や育成について考え示唆を得ることを目標とする。

〔報告内容〕 地域コミュニティの特徴と緑化活動や農的活動の取り組み、その担い手、交流の広がりについて

- 〔報告者〕 ①東梅 良成 (六ツ川地区連合自治会会長)  
 ②渋谷 八郎 (旭区白根台第九自治会会長)  
 ③横山 太一 (いずみ野サポーターズ代表)  
 ④阿部 淳子 (いずみ野小学校校長)

(7) 「震災が生み出したコミュニティによるもう一つの復興イメージ  
 ～陸前高田市・大船渡市の場合を事例として～」

コーディネーター:伊藤 光造(地域まちづくり研究所代表、SAVE IWATEしずおか代表)  
 コメンテーター:饗庭 伸(首都大学東京都市環境学部)

企画趣旨:

東日本大震災から3年、被災地の復興がハード面において本格化する一方で、全国から支援に入った人々と被災地の間に、震災がなければ生まれなかった新たな関係を手がかりとしながら、緩やかなコミュニティレベルの復興が進みつつある。地域は離れていても、人がつながることで生み出された新しい形のコミュニティ。ヴァーチャルなコミュニティの成立によって、被災地のリアルなコミュニティの再生を促すもう一つの復興の可能性を議論する。大船渡市と陸前高田市は、復興のプロセスが大きく異なる。この2つの地域の事例を対比しつつ今後の課題について議論できればと考えている。

- 〔報告者〕 ①八木 健一郎 (大船渡市 三陸とれたて市場)  
 ②金野 誠一 (農家、陸前高田市米崎町)  
 ③伊藤 雅人 (「〇(まる)ごと陸前高田協議会」事務局長)  
 ④大洞 和彦 (トヨタ自動車株式会社社会貢献推進部)

(8) 自由論題B

- 〔報告者〕 ⑤谷 亮治 (京都市まちづくりアドバイザー、同志社大学嘱託講師)  
 「現代のコミュニティ論の仮説提起」  
 ⑥高村 学人 (立命館大学政策科学部)  
 「多極化する都市空間のガバナンス、コミュニティの弊害を防ぐ法の役割  
 —アメリカのBID調査から」  
 ⑦内田 和浩 (北海学園大学教授)  
 「韓国『大田型良いまちづくり公募事業』と地域共同体づくりの展開」  
 ⑧林 加代子 (愛知学泉大学非常勤講師)  
 「避難所運営におけるコミュニケーション向上に関する調査研究」

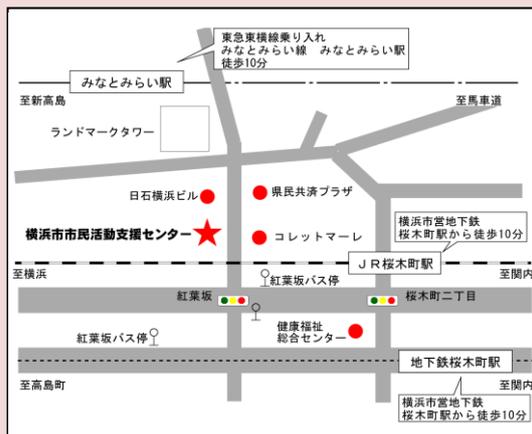
〔司 会〕 選考中

(9) 「横浜の協働によるまちづくり」

開催日時 :  
 7月6日(日)13時00分～16時00分

第二会場 :  
 横浜市市民活動支援センター4階会議室  
 〒231-0062 横浜市中区桜木町 1-1-56  
 クリーンセンタービル4階  
 TEL 045-223-2666

※この分科会は場所や時間帯が他とは  
 異なりますので、ご注意ください。



コーディネーター: 名和田 是彦(コミュニティ政策学会会長)

コメンテーター: 杉崎 和久(法政大学・学会会員)

荒木 千晴(日本社会福祉士会・学会会員)

石井 大一郎氏(市民セクターよこはま・学会会員)

司会者: 調整中

**企画趣旨:**

横浜にはまだ全市を覆う一本の都市内分権制度はありませんが、「協働」の考え方に基づいてコミュニティの活性化をめざす多様な政策的試みが行なわれています。その中でももっとも特徴的だと思われるものを3つ取り上げ、横浜の地域コミュニティとコミュニティ政策の特徴を探ります。

地域福祉計画(横浜市では地域福祉保健計画としています)は、もちろん社会福祉法に定められた仕組みですが、横浜市では、全市計画、区計画のほか、全区で235の地区別計画が策定されているのが特徴的で、都市内分権制度がない中で、横浜市のベーシックなコミュニティ活性化の仕組みとなっていると考えられます。

ヨコハマ市民まち普請事業は、都市計画分野の地域まちづくり推進条例の趣旨に沿った仕組みで、地域側の提案を公開で審査して500万円の補助金を市民自身が行う(自身で土木作業を行うことも含む)ハード整備の事業に交付する、という大変ユニークで、横浜のコミュニティの特徴が大いに発揮される事業です。

よこはま地域づくり大学校は、横浜の代表的な中間支援組織の一つであり、市民活動支援センターの管理運営団体でもある認定特定非営利活動法人市民セクターよこはまが行なってきた地域づくりの講座ですが、数年経って地域づくりの活動者が多数参加する活気のある実践的な場に発展してきています。

これら3つの仕組みから代表的な事例を1つずつ取り上げ、地域コミュニティ活性化の横浜的特徴と普遍的メッセージを探ります。

**(10)「金沢区交流拠点さくら茶屋にししば見学」開催時間:7月6日(日)13時~16時**

開催日時:7月6日(日)13時00分~16時00分

定員:20名

参加費:この分科会だけ参加される方は、1500円をお支払いください。また、交通費は各自の負担となります。

コーディネーター: 岡本溢子(特定非営利活動法人さくら茶屋にししば理事長)

**企画趣旨:**

この分科会は、いわばエクスカージョン的分科会であり、参加希望者は、午前のプログラム終了後に集合して、そのまま現地に向かいます。定員は20名とします。

金沢区の「さくら茶屋にししば」は、ヨコハマ市民まち普請事業の助成を受けて2010年5月にオープンしたコミュニティ・カフェで、開設以来様々なアイデアと関係者の熱心な関わりによって地域の多機能な交流拠点として発展してきた、横浜でも最も元気な地域拠点の一つです。現地でさくら茶屋にししばと金沢区役所の方々が応対していただきます。



エクスカージョンB：7月6日（日）14時50分～17時30分（予定）

### 「地域が支える寿町」

- 集合(出発)時間：14時50分
- 集合場所：開港記念会館エントランス
- 場所：横浜市中区 寿地区（プログラム③・④は、横浜市寿福祉プラザ）
- 定員：20名程度、
- 参加費：寿地区までの移動費（タクシーでの乗合を予定）
- コーディネーター：市民局市民協働推進部市民活動支援課 高梨・和田  
コミュニティ政策学会理事（調整中）

横浜市中区にある寿地区は、福祉ニーズの高い街と言われています。それは、日本全体の高齢化により「地域で支える力」が低下する中、この地区を頼って福祉ニーズの高い方々が多く転入してきているためです。現在、支援団体（者）の熱い思いと連携に基づいた取組により、何とか住民の方の生活が支えられています。

今回、寿地区を取り巻く環境や抱えている課題、行政による自立支援施策の現状や、様々な活動をする地域団体等の取組が、どのように「地域の力」として機能しているのかを知っていただくため、地区見学、座学及び意見交換等を行います。

#### <プログラム>

##### ①地区見学（14:55～16:00）

- ・ヨコハマホステルヴィレッジの宿泊施設
- ・横浜市寿生活館・寿児童公園
- ・さなぎの食堂、木楽な家、介護事務所 等
- ・寿町総合労働福祉会館（広場・診療所・図書室・市営住宅・クリーンセンターほか）

##### ②座学（16:00～16:30）

- ・寿地区の歴史について
- ・寿地区の変化と課題
- ・寿地区と行政の関わり

##### ③意見交換（16:30～17:30）

地域関係者や寿町勤労者福祉協会職員を交えてのディスカッション

- （登壇予定者）
- ・寿地区自治会事務局長、寿地区民生委員協議会会長 佐藤 眞理子 氏
  - ・公益財団法人 寿町勤労者福祉協会 中路 博喜 管理課長



### 〔大会への参加申込方法〕

- (会員の方) 大会案内の Newsletter 発送時に同封される「参加申込票」(学会 HP からもダウンロードできます)にご記入いただき、学会事務局までメールあるいはFAXでお送り下さい。参加費・懇親会費につきましては、会場受付にてお支払い頂きます。
- (非会員の方) 学会 HP からダウンロードできる「参加申込票」にご記入の上、学会事務局までメールあるいはFAXでお送り下さい。参加費・懇親会費につきましては、会場受付にてお支払い頂きます。

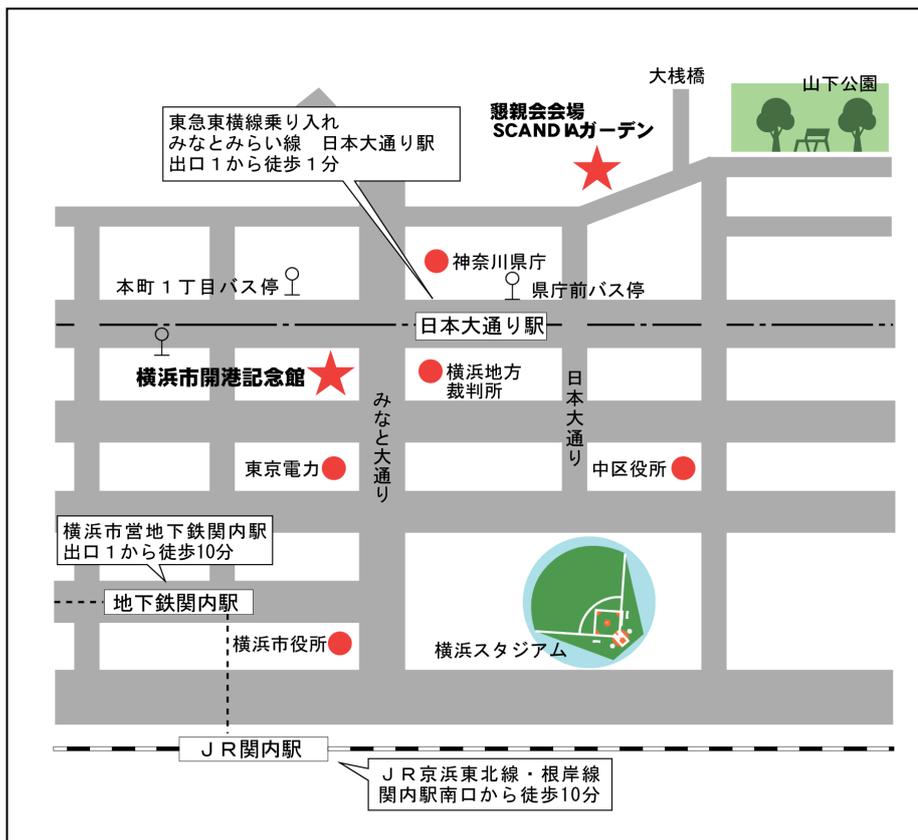
★ 申込期限：6月20日(金) 当日参加も可能ですが、希望分科会が満席の場合はご容赦下さい。

### 〔会場案内〕

横浜市開港記念会館 〒231-0005 横浜市中区本町1丁目6番地 TEL 045-201-0708

- ・みなとみらい線「日本大通り」駅 出口1から徒歩1分
- ・JR京浜東北線・根岸線「関内」駅 南口から徒歩10分
- ・横浜市営地下鉄「関内」駅 出口1から徒歩10分

\* 駐車スペースはございませんので、公共交通機関をご利用ください。



#### ★ 昼食について

昼食については、会場内でのお弁当等の販売、レストランはありませんので、周辺の飲食店をご利用下さい。

#### ★ 宿泊施設について

関内駅周辺、みなとみらい界隈にたくさんありますので、各自早めにご予約ください。

コミュニティ政策学会 第25回理事会議事録
-----------------------

日時：2013年12月15日（日） 9：30～12：00 場所：立命館大学朱雀キャンパス1階大研修室

出席者：鯉坂学、安藤周治、乾亨、大内田鶴子、大洞和彦、佐藤克廣、直田春夫、高村学人、  
田中義岳、玉野和志、中田實、中川幾郎、名和田是彦、辻上浩司、井岡勉、伊藤光造、  
鳥越皓之、林泰義、宗野隆俊、山崎仁朗

議長：名和田 是彦

事務局：伊藤 雅春

オブザーバー：石田芳弘

### 【審議事項】

#### 1. 第13回横浜大会の企画について

- ・名和田横浜大会実行委員長からの経過報告。全体会のテーマは、「市民が育む地域運営システム」として検討中。分科会企画はチームに別かれて検討するところまできている。
- ・大洞理事から震災関連分科会の企画案の説明。被災地と支援に入ったコミュニティの間に生まれつつあるバーチャルなコミュニティについてテーマとして考えている。
- ・安藤理事から、運営システムを一步進めて経営システムという言葉でもいいのか、という提案があった。名和田実行委員長からは、テーマの言葉で言えば、市民が育むという部分に力点がある。地域経営ということが適切かどうか議論したいとの発言があった。
- ・名和田会長から、中山間地域分科会については、安藤理事を中心に辻上理事、大洞理事に企画を詰めて頂きたいとの確認がなされた。

#### 2. 研究プロジェクトについて

- ・石田会員から研究プロジェクトの提案。伝統的な日本の祭りとはコミュニティについて研究し、祭り実践者と研究者とをむすびつける役割を果たしていきたい。
- ・名和田会長より石田会員提案の祭り研究プロジェクトについて進めていただきたいとの発言があった。
- ・山崎理事の第3プロジェクトの成果が学会叢書の第一巻として刊行される予定である事が報告された。

#### 3. 機関誌「コミュニティ12」について

- ・山崎編集委員長より12号の編集状況について報告。特集については、「コミュニティ政策の危うさとはどう向き合うか」というテーマで進めている。小水力発電については、次回以降の特集とする予定。
- ・山崎編集委員長よりホームページに投稿要領をアップしてほしいとの要望があった。

#### 4. 学会叢書について

- ・名和田会長より進行状況の報告。刊行趣意書の紹介。公募して審査して執筆する流れを考えている。叢書の他にブックレットの取り組みも強化していく。コミュニティ政策論についての議論も進めたい。
- ・鳥越理事より、出版社の編集者の権限と委員会の権限について編集者と対話ができる関係にしておくべきとの提言があった。もう一点、刊行委員の個人名を肩書きも入れて明示すべきとの提案があった。
- ・名和田会長より、趣意書の最後に刊行委員会の名前を入れる方向で検討したいとの発言があった。その他、出版助成について意見があり、刊行委員会で検討することとなった。

#### 5. 国際交流委員会について

- ・大内委員長より資料説明。2014年度はNUSAの大会が5月21日～24日にオレゴン州ユージンで開催予定。大内、前山、鯉坂、田中、宗野が参加予定。2013年度の国際コモンズ学会には、大内、前山、名和田、高村、宗野が参加。

#### 6. 第14回大会の開催候補地について

- ・田中理事より報告。金沢大会は、事務局体制が不安とのことで難しいということになった。
- ・辻上理事より伊賀大会の可能性について報告。市長には了解を得ている。三重大学のサテライトがあり、予算、人員については対応できる体制にあるとのこと。
- ・2015年は、伊賀大会で決定。中川副会長から実行委員会参加の意向が表明された。名和田会長からは社協の参加の要望が出された。
- ・乾研究企画委員長と辻上理事を中心として、実行委員会の組織化を進めることが確認された。

#### 7. 震災関連の課題について

- ・伊藤光造理事より震災分科会とシンポジウムを通して、被災直後のコミュニティ⇒避難所のコミュニティ⇒仮設住宅のコミュニティ、超広域コミュニティ、福島からの避難コミュニティなどそれぞれ

れの局面の状況把握の重要性が報告された。

- ・鳥越理事より、コミュニティ政策学会としては、コミュニティの問題として長い時間の中で考える必要があり、阪神淡路大震災から学ぶことも視野に入れるべきとのアドバイスがあった。
- ・乾研究企画委員長より、特別委員会の設置が提案され、伊藤光造理事、大洞理事に加えて大内理事より参加の申し出があった。次回のシンポジウムは、震災関連部会で企画運営することが確認された。

**8. J-STAGEの進行状況について**

- ・大内理事より、ホームページの切り替えと移行について報告があった。

**9. 国および自治体におけるコミュニティ政策をめぐる状況について**

- ・名和田会長より、日本都市センターの研究会で都

市内分権に関する調査を進めているとの報告があった。

- ・中川副会長より、地域組織の法人化を巡って進めている、朝来市、名張市、雲南市、伊賀市の共同研究会の報告があり、学会として、コミュニティ法人制度の検討の必要性が指摘された。

**10. その他（事務局体制について）**

- ・伊藤事務局理事より、学泉大学の事務局が継続できなくなる旨報告があった。
- ・名和田会長より、とりあえず大会運営は臨時体制でつなぎ、今後の事務局体制については、次回理事会で提案する事が確認された。

以上

(文責：事務局担当理事 伊藤 雅春)

**コミュニティ政策学会会員動向 (2012年7月3日から2013年12月10日)**

**新入会員**

No.	会員氏名	所属等	推薦人	分類
1	石田 芳弘	至学館大学 伊達コミュニケーション研究所	伊藤 雅春	個人
2	小泉 秀樹	東京大学工学部都市工学科 まちづくり、コミュニティデザイン	名和田 是彦	個人
3	橋川 健祐	関西学院大学 人間福祉学部 実践教育支援室	埜下 昌宏	個人
4	笹川 桂一	新潟県上越市自治・市民環境部	山崎 仁朗	個人
5	伊藤 光造	NPO法人くらしまち継承機構	伊藤 雅春	個人
6	田中 省吾	横浜市市民局市民協働推進部地域活動推進課	名和田 是彦	個人
7	矢部 正隆	法政大学大学院 公共政策研究科	名和田 是彦	学生

**退会希望**

No.	会員氏名	所属等	分類
1	小内 純子	札幌学院大学	個人
2	加藤 千恵子		個人
3	野尻 俊明	慶應義塾大学法学部 (通信) 在学	個人
4	初村 尤而	社団法人大阪自治体問題研究所	個人
5	高橋 邦之	愛知学泉大学 非常勤	個人

**コミュニティ政策学会 Newsletter No.29**

愛知学泉大学 地域社会デザイン総合研究所内

〒471-8532 愛知県豊田市大池町汐取1 TEL 0565-35-7031 FAX 0565-35-7020

E-mail a-compol@gakusen.ac.jp URL <http://www.gakusen.ac.jp/commu/a-compol/>

発行日 2014年5月27日 編集 事務局 伊藤, 森